

最新スクリプト講座

第3回 テキストデータを エクセルに 出力しよう

今回は、ウェブ上のフォームから、アンケートを収集するスクリプトを書いてみた。これで、フォームで入力した値がテキストファイルにどんどん追加されるようになった。さて今回は、ブラウザから自動的にエクセルを呼び出して、集計/分析まで行うPHPスクリプトに挑戦してみよう。

宮本和明

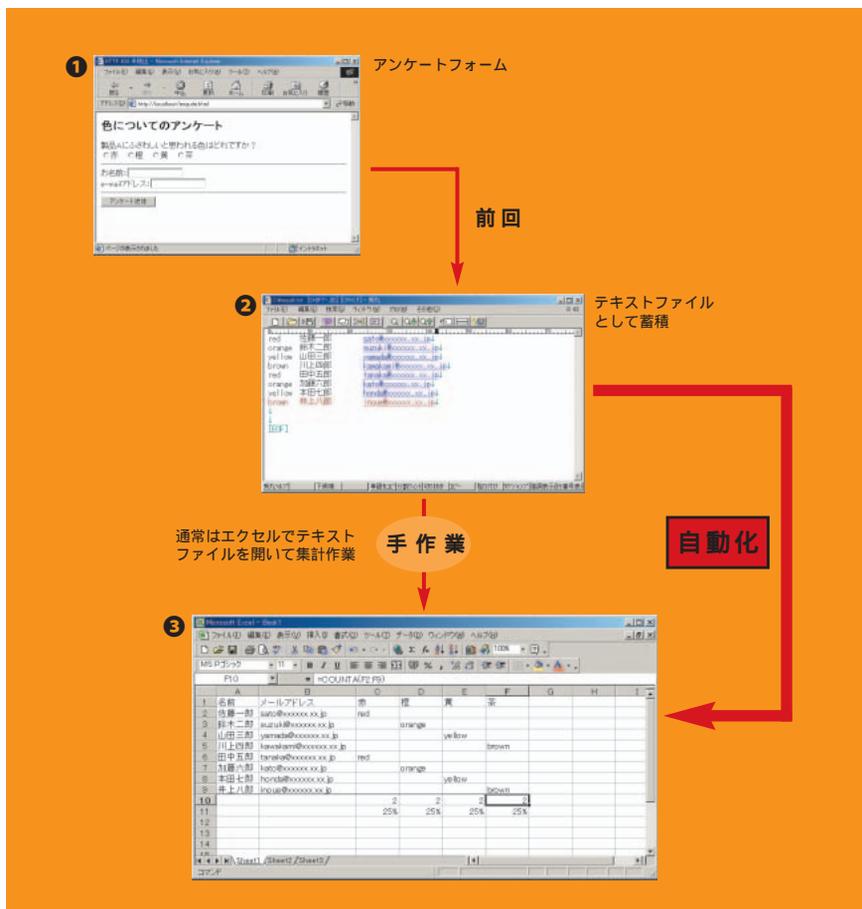
テキストファイルをどんなエクセル表示にしたいか

前回は、①のアンケートフォームに入力すると、それがテキストファイル(②)に書き足されるようなPHPスクリプトを書いた。

通常、このテキストファイルをダウンロードして、エクセルなどで集計処理をするはずである(この処理をしないのならば、何のためにアンケートを取ったか分からない!)

たとえば、③のようなエクセルシートにする場合を考えてみよう。③では、エクセルのCOUNTA関数(空欄でないセルの数を数える)でアンケート結果を集計し、SUM関数(数値の合計を出す)と組み合わせて、それぞれが何パーセントを占めているかを集計している。

しかし、テキストファイルをいちいちエクセルに変換してから、書式を変更するのは面倒である。そこで、PHPを使って、いきなり③の状態までもっていきというのが今回の目標である。

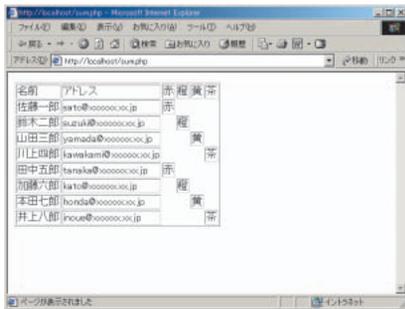


テーブルタグで整形

テキストファイルをPHPで読み込んで、テーブルタグで整形をして出力するのは、PHPに慣れてくると比較的簡単に思いつくはずだ。まずは、そこからスタートしてみよう。

リスト1では、HTMLで一覧画面を作っている。(1)で読み込みファイルを指定して、(2)で、すべての値を配列に格納している。file()関数を使うと、テキストファイルを1行ずつの配列に読み込んでくれる。それをさらにsplit関数で分割し、list関数を使って\$color[]、\$email[]、\$scolor[]という配列に分けている(3)。

「データ記述部」では、データの数だけfor文で繰り返して、データ内容をテーブルタグの中に出力している(4)。



名前	アドレス	赤	橙	黄	茶
佐藤一郎	sato@xxxxxxxx.jp	赤			
鈴木二郎	suzuki@xxxxxxxx.jp		橙		
山田三郎	yamada@xxxxxxxx.jp			黄	
川上四郎	kawakami@xxxxxxxx.jp				茶
田中五郎	tanaka@xxxxxxxx.jp	赤			
相澤六郎	aisawa@xxxxxxxx.jp		橙		
洋田七郎	youta@xxxxxxxx.jp			黄	
井上八郎	inoue@xxxxxxxx.jp				茶

これは、データをHTML形式で表示させた場合

db_conv.php

```

<?
//読み込み先ファイルの指定
$filename = " C:result.txt "; ..... (1)
//データを配列に入れる ..... (2)
$lines =file($filename);
$datanum =count($lines);
for($i=0;$i<$datanum;$i++){
    $lines[ $i] =chop($lines[ $i] );
    list($color[ $i] ,$name[ $i] ,$email[ $i] )=@split( "\t" ,$lines[ $i] ); ..... (3)
}
?>
<HTML>
<HEAD>
<META HTTP-EQUIV= " Content-Type " CONTENT= " text/html;CHARSET=Shift_JIS " >
</HEAD>
<BODY>
<TABLE BORDER>
<!--タイトル部-->
<TR>
<TD>名前</TD><TD>アドレス</TD><TD>赤</TD><TD>橙</TD><TD>黄</TD><TD>茶</TD>
</TR>
<!--データ記述部-->
<?
for($j=0;$j<$datanum;$j++){
    echo " <TR>\n ";
    echo " <TD> " . $name[ $j] . " </TD>\n ";
    echo " <TD> " . $email[ $j] . " </TD>\n ";
    echo " <TD> ";
    if($color[ $j] == " red " ){
        echo " 赤 ";
    }
    echo " </TD>\n <TD> ";
    if($color[ $j] == " orange " ){
        echo " 橙 ";
    }
    echo " </TD>\n <TD> ";
    if($color[ $j] == " yellow " ){
        echo " 黄 ";
    }
    echo " </TD>\n <TD> ";
    if($color[ $j] == " brown " ){
        echo " 茶 ";
    }
    echo " </TD>\n ";
    echo " </TR>\n ";
}
?>
</TABLE>
</BODY>
</HTML>

```

配列を扱う関数

- file \$lines = file (" ファイル名 ");
- 「ファイル名」で指定されたファイルを読み込み、1行ずつ、\$lines[]の配列に追加する。1行目の内容は\$lines[0]に、2行目の内容は\$lines[1]に、それぞれ代入される。
- split \$array = split (" 正規表現 ", " 文字列 ");

「文字列」を指定の「正規表現」で分割し、\$arrayの配列に入れる。

• list list (" 変数1 ", " 変数2 ", " 変数3 ", ...) = \$array;

「\$array」で与えられた配列を、それぞれ「変数1」「変数2」「変数3」...に代入していく。

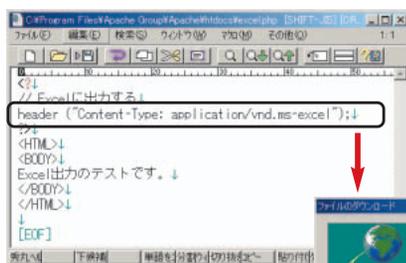
ヘッダー関数を使ってエクセルを呼び出す

ここで1つ新しいルールを覚えよう。そもそもインターネットエクスプローラは、自分以外のアプリケーションを呼び出せるようになってきている。リアルオーディオや、アクロバット（PDF）はその代表的なものだが、それだけではなく、エクセルやワードも呼び出

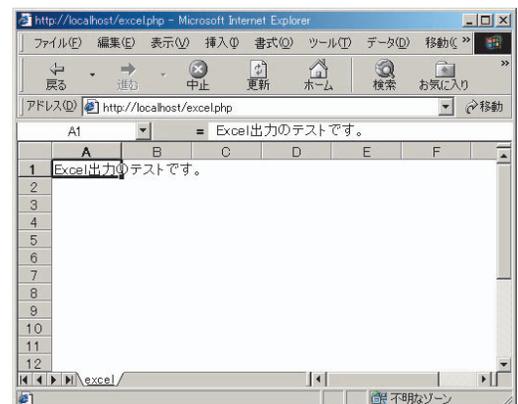
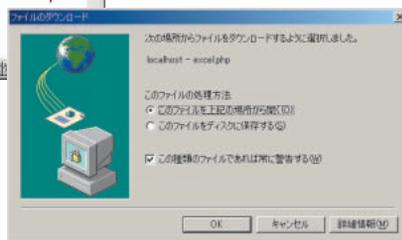
せる。インターネットエクスプローラがどの外部のどのアプリケーションを呼び出すかは、ヘッダーで定義でき、エクセルを呼び出す場合は、次のようにヘッダー関数を利用することにより、ページ全体をエクセルで出力するように指定できる。

header (" Content-Type: application/vnd.ms-excel ");

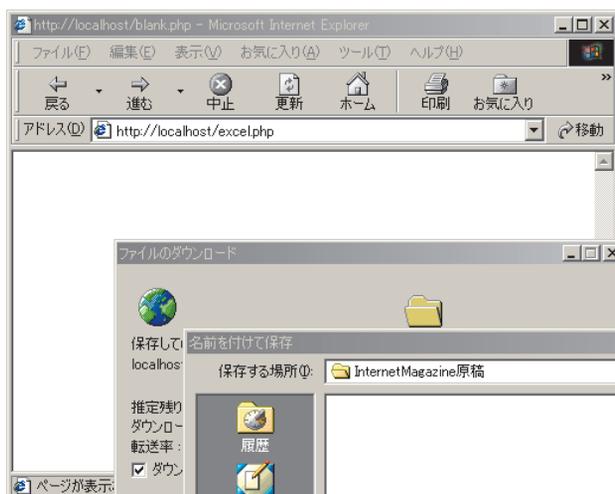
行頭でヘッダーを定義したあとは、前のページのHTMLをそのまま記述すればよい。なぜかという、最近のエクセルはHTMLが読めるからである。特にテーブルタグは、CENTERやBGCOLORといったオプションもかなり忠実に再現してくれる。



このヘッダーがあると、PHPが開いたときにダイアログが出る



「このファイルを上記の場所から開く」を選択すると、ブラウザ内でExcelが開く



「このファイルをディスクに保存する」を選択すると、Excelファイルの保存先を聞いてくる

=SUM や =COUNTA などのエクセルの関数を使う

さて、インターネットエクスプローラ上からエクセルを開くワザはこれができるようになった。しかし最終的にやりたいことは、SUM やCOUNTA などのエクセル関数を埋め込む

ことである。また、関数だけでなく、パーセントなどの書式も指定をしたい。通常、エクセルの書式は、セルを右クリックして「セルの書式設定...」を開き、「表示形式」などを

選択するという手順を踏む。しかし、PHP を使うことによって、その書式設定も、あらかじめセットできるのだ。

これはちょっと奥が深いので、次回のテーマにしたい。できそうだなと思われた方は、ぜひ挑戦してみてください。

	A	B	C	D	E	F
1	名前	アドレス	赤	橙	黄	茶
2	佐藤一郎	sato@xxxxxx.xx.jp	赤			
3	鈴木二郎	suzuki@xxxxxx.xx.jp		橙		
4	山田三郎	yamada@xxxxxx.xx.jp			黄	
5	川上四郎	kawakami@xxxxxx.xx.jp				茶
6	田中五郎	tanaka@xxxxxx.xx.jp	赤			
7	加藤六郎	kato@xxxxxx.xx.jp		橙		
8	本田七郎	honda@xxxxxx.xx.jp			黄	
9	井上八郎	inoe@xxxxxx.xx.jp				茶
10			2	2	2	2
11	合計		25.0%	25.0%	25.0%	25.0%

今回は、このように関数を埋め込んだり、書式をあらかじめPHP上で設定したりするやり方を説明する

PHPの新刊紹介

本連載の著者が書いた「ホンキで学ぼう! PHPのキホン」が、書店にて好評発売中です。

演習問題や、PHPを商用利用する場合の手引き、社内PHPシステム導入記など、初心者からビジネスユーザーまで幅広く対応しています。

もう1歩進んだウェブアプリケーションを構築したい方にはイチオシです。

収録内容: Webアプリケーションを知る

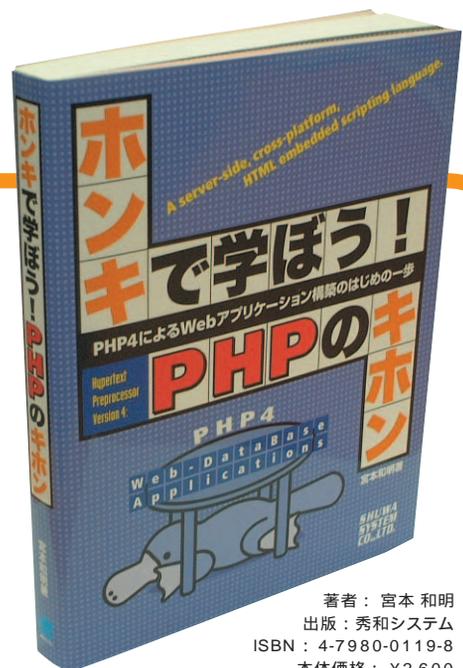
ブラウザ+アプリケーションが生み出す新しいコミュニケーション

PHPで作るアプリケーション2

データベースで作るオンライン「お気に入り」システム

社内PHPシステム導入記

経費精算書をオンライン化しました ...ほか。



著者: 宮本和明
出版: 秀和システム
ISBN: 4-7980-0119-8
本体価格: ¥2,600



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp